

# 近代

国民国家

仏教国民論

# 日本思想

僧としての風  
刷新  
実証史学

近世仏教墮落論

鎌倉新仏教

# 仏教史学

オリオン・クラウタウ

Orion KLAUTAU

近代日本思想としての仏教史学 目次

凡例 2

前書き 13

序——仏教と近代…………… 17

第一節 「仏教」概念に関する近年の研究動向 17

第二節 近代日本、仏教学、オリエンタリズム——研究対象の設定に向けて 26

第三節 「宗教史学」への眼差し 36

## 第一部 国民国家と「仏教」をめぐる歴史叙述

第一部 緒言…………… 49

第一章 「日本仏教」以前…………… 55

——原坦山と仏教の普遍化……………

はじめに 56

第一節 原坦山の生涯——近世的宗学と近代的仏教学のはざま 58

第二節 原坦山の明治初期 62

第三節 アカデミズム仏教学の誕生 67

おわりに 73

## 第二章 「日本仏教」の誕生

——村上專精とその学問的営為を中心に……………

83

はじめに 84

第一節 初期の『日本仏教史』とその課題 85

第二節 村上專精と「日本仏教史」 89

第三節 村上專精による「日本仏教の特色」——戒律・哲学・信仰 96

第四節 村上專精による「日本仏教の特色」——仏教と国家 100

おわりに 105

## 第三章 大正期における日本仏教論の展開

——高楠順次郎の仏教国民論を題材に……………

119

はじめに 120

第一節 高楠順次郎の生涯 121

第二節 高楠順次郎をめぐる先行研究 124

第三節 『仏教国民の理想』とその試み 127

第四節 個人主義、家族主義、そして阿弥陀信仰 130

第五節 高楠と家族主義——コンテキストによせて 134

おわりに 138

#### 第四章 十五年戦争期における日本仏教論とその構造

——花山信勝と家永三郎を題材として……………149

はじめに 150

第一節 コンテキストによせて——『国体の本義』とその仏教論 153

第二節 花山信勝にみる日本仏教の「本質」と「実践」 155

第三節 家永三郎の「否定の論理」と日本仏教 159

第四節 花山／家永の日本仏教論の構造 163

おわりに 167

第一部 結語……………177

## 第二部 僧風刷新と「仏教」をめぐる歴史叙述

第二部 緒言……………183

第一章 伝統的な語りにもみる僧侶の自己批判……………189

——諸宗同徳会盟の仏教言説を中心に……………

はじめに……………190

第一節 「排仏論」と「護法論」——カテゴリとその問題に寄せて……………191

第二節 近世僧侶による仏教批判をめぐって……………194

第三節 明治初期の宗教政策と僧侶の自己批判……………197

第四節 諸宗同徳会盟の成立とその基本問題……………199

第五節 諸宗同徳会盟と明治国家……………202

第六節 会盟参加者にもみる仏教批判の意義……………204

おわりに……………207

第二章 近代仏教(史)学の成立と近世僧侶の「墮落」……………219

はじめに 220

第一節 近代仏教(史)学事始と「僧侶の墮落」 221

第二節 明治期の「日本仏教史」にみる近世仏教の位置づけ 224

第三節 近世仏教の「衰微」と鎌倉新仏教の「隆盛」 228

第四節 辻善之助の歴史叙述における廃仏毀釈の位置づけ 231

おわりに 235

### 第三章 僧侶批判と「実証史学」

——辻善之助をめぐる……… 243

はじめに 244

第一節 辻の近世仏教像 249

第二節 「信仰の形式化」とその語り方 251

第三節 辻仏教史学の政治性 258

おわりに 263

### 第四章 近世仏教墮落論の批判と継承

——戦後日本の学界を中心に……… 271

はじめに	272
第一節 「葬式仏教」と近世社会——圭室諦成をめぐって	273
第二節 研究領域の確立——學術雑誌『近世仏教』とその周辺をめぐって	277
第三節 近世仏教の近代的精神とその課題	280
第四節 圭室文雄をめぐって	282
第五節 近世仏教と地域社会	285
第六節 「墮落論」の彼方——大桑斉と高埜利彦をめぐって	287
おわりに	289
第二部 結語	297
結——「日本仏教」の近代	299
あとがき	303
文献一覧・出典一覧	311
索引	i